

日本最大のゼロメートル地帯～尾張平野の安全・安心のために

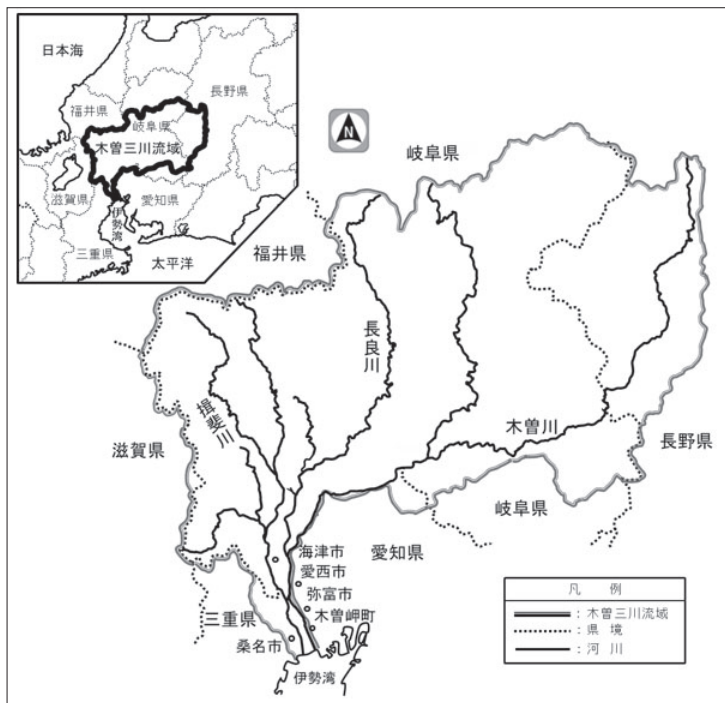
—— 木曽三川下流部の河川と公園の整備・管理

国土交通省 中部地方整備局

木曽川下流河川事務所長 大坪 祐紀



図-1 木曽三川流域



1. はじめに

木曽川下流河川事務所は、木曽三川と呼ばれる、木曽川、長良川及び揖斐川の下流部（河口から約25km）と、揖斐川の支川である多度川及び肱江川の一部（合流点から約2km）を管理しており、管理区間は岐阜県、長野県、三重県の3県に渡ります。（図-1）

木曽三川は、我が国最大規模の海拔ゼロメートル地帯である濃尾平野を北から南に流れ、地域に多くの恵みをもたらしていますが、万が一、堤防が決壊した場合、広範囲かつ長時間の浸水被害となるおそれがあります。（図-2）

過去には、昭和34年9月の伊勢湾台風での高潮により濃尾平野の広範囲が浸水し、甚大な被害が生じました。これを契機に、昭和36年に国や自治体による防災計画の作成などを定めた、災害対策基本法が制定されました。

また、当事務所においては、広大な木曽三川を利用した「国営木曽三川公園」の整備と維持管理を行っています。木曽三川の明治改修が始まった明治20年（1887年）から百周年にあたる昭和62年（1987年）に開園し、無料で利用できる憩

いの場として、年間831万人（令和4年度）の方に来場頂いています。

2. 安全、安心のために

木曽三川下流部では、高潮を対象として対策を実施する高潮区間と、洪水を対象とした一般区間に分けて治水対策を進めています。

高潮区間では、これまでの整備により必要な堤防高は概ね確保できていますが、南海トラフ地震など大地震により液状化が発生し、堤防が沈下した後も一定の高さが保持できるよう、堤防の天端のかさ上げなどの耐震対策を実施しています。

一般区間では、戦後最大洪水（木曽川：昭和58年9月洪水（台風第10号と秋雨前線）、長良川：平成16年10月洪水（台風第23号）、揖斐川：昭和50年8月洪水（台風第6号）・平成14年7月洪水（台風第6号）を

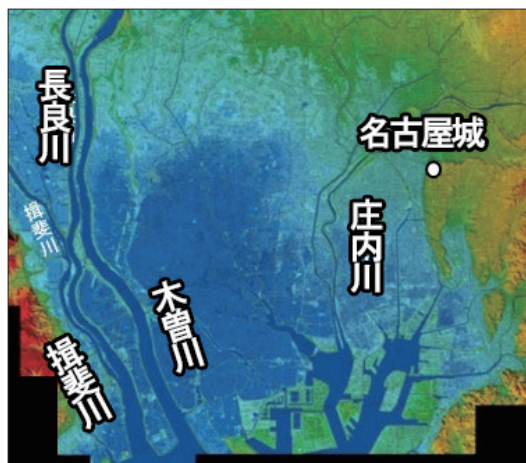


図-2 濃尾平野標高

写真-1 揖斐川 御砂樋管の改築工事（令和5年11月撮影）



目標に整備を進めており、長良川では河道掘削、揖斐川では御砂樋管の整備(写真-1)を進めています。また、木曽川では今年、愛知県からの受託工事として葛木樋管の整備に着手します。

さらに、地域の安全、安心の確保のためには、国によるハード整備のみならず、地域での取組が重要であり、令和2年度には流域の自治体や関係者からなる「木曽川水系流域治水協議会」を設立し、流域治水プロジェクトを作成するとともに、流域のあらゆる関係者が協働で取り組む流域治水を推進しています。加えてスーパー台風襲来時に犠牲者をゼロにするため、浸水想

定区域外への適切な広域避難誘導の実現に向けて、流域8市町村と木曽川下流河川事務所で「木曽三川下流部広域避難実現プロジェクト」を立ち上げ、取組を協働で進めています。(写真-2)

また、水際環境の保全・再生のため、ヨシ原及び干潟の再生を実施するほか、河川でのにぎわい創出のため、木曽川と長良川の背割堤において、愛西市とともにかわまちづくり事業としてケレップ水制周辺のワンド再生等の整備、揖斐川においては民間事業者による営業活動を可能とする河川空間のオープン化を桑名市とともに進めています。

3. 広大な河川空間を利用した憩いの場

木曽三川の広域の交流を進め、レクリエーション内容の向上・充実を図るとともに、自然環境や地域の歴史文化への理解を深めるため、国営木曽三川公園では施設更新を進めています。

昨年7月には、アクアワールド水郷パークセンターの堀田北エリアを追加開園(写真-3)し、スラックラインパーク等の利用が始まりました。今後は、木曽三川公園センターの展示施設である「水と緑の館」の改築や、展望タワー周辺の園路・広場の改修を行い、周辺施設との連携やイベント活用時の利便性向上を図ります。



写真-2 広域避難実現シンポジウム（令和5年11月19日開催）

写真-3 アクアワールド水郷パークセンターのスラックラインパーク



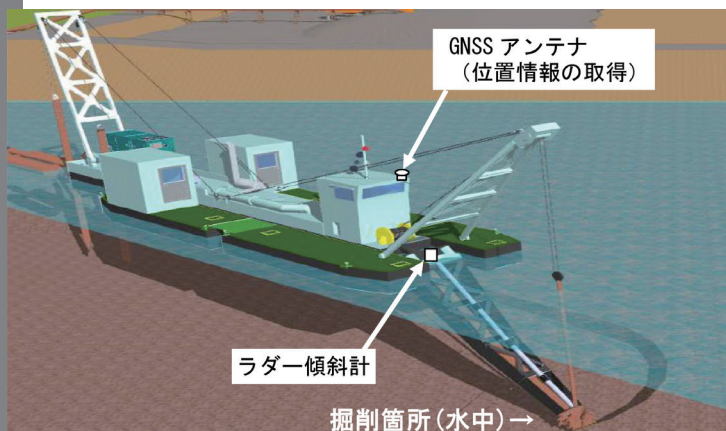


図-3 ICTを活用したしゅんせつ工事



図-4 仮想空間を利用した大型土嚢の設置訓練 (イメージ)

4. 最新技術活用への挑戦

こうした、河川や公園の事業実施に当たっては、令和5年度に原則適用となったBIM/CIMに加え、ICTの活用を推進しており、今年度実施した長良川の浚渫工事においては、ICT技術を活用し、施工履歴データによる出来形管理で工事の効率化と精度向上が図られました。(図-3)

さらに、河川や地域の状況を実感してもらうため、UAV(ドローン)を活用し、空中から連続的に撮影した

写真を用いた、スカイバーチャルツアーの提供を開始しました。(図-5)

木曽三川公園においても、UAV搭載のカメラ映像を基にして、植栽管理の効率化・省力化を図る試行を進めています。

また、台風襲来時の尾張大橋・伊勢大橋周辺における大型土のう設置等の緊急対策について、現地状況を3D空間に再現し、さまざまなケースを想定した訓練を、道路の通行止めなしで可能とするバーチャル訓練の

準備を進めています。(図-4)

5. おわりに

木曽三川下流部は、古来より水害に悩まされ続けている地域であり、江戸時代の薩摩藩平田靱負らによる宝暦治水、ヨハネス・デ・レイケによる明治改修など多大な功績により現在の姿となっています。これらの歴史を引き継ぐとともに、新たな木曽三川と地域のあり方を見据え、事務所一丸となって事業を進めてまいります。



図-5 木曽三川スカイバーチャルツアー